

氏名：伊藤 亜矢子 (ITO Ayako)
所属：人間文化創成科学研究科人間科学系
学位：博士(教育学)
職名：准教授
専門分野：学校臨床心理学、コミュニティ心理学
URL：http://www.develop.ocha.ac.jp/ittoa.html
E-mail：ito.ayako@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

コミュニティ・アプローチ／学級風土／スクールカウンセリング／実践研究／コンサルテーション
community action / classroom climate / school counseling / collaborative action research / consultation

◆主要業績

総数(25)件

- ・伊藤 亜矢子(編著) 2007 学校臨床心理学—学校という場を生かした支援— 北樹出版(東京).
- ・伊藤 亜矢子 2007 スクールカウンセリングと学級風土—ニーズ・効果査定の観点から—コミュニティ心理学研究, 11(1), 5-13.
- ・伊藤 亜矢子・浅井 沙央里・石田 素子・葉 秀玲 2007 台湾における児童生徒への心理的支援：小中学校スクールカウンセラーの先進的取組の紹介 お茶の水女子大学臨床相談センター紀要, 9, 63-70.

◆研究内容 / Research Pursuits

不登校予防システムの構築に関する学校支援実践研究

国際比較に基づくスクールカウンセラーによる教師支援方法の開発

学級風土質問紙(Classroom Climate Inventory)の開発とそれを応用した学校支援。

①教師個人レベルでは、CCI結果を媒体とした教師コンサルテーション、②学級レベルでは、CCI活用シートを利用した学級と個人の双方に焦点をあてたコンサルテーション、③学区・学校レベルでは、CCIを用いた教師教育、等の実践研究を行っている。

校内連携を推進する情報共有・連携システムの構築
小中連携を推進する情報共有・連携システムの構築

Development teacher & student support programs for mental health problem by international comparison.

Development and application of Classroom Climate Inventory (CCI) for school support.

1) At individual (teacher) level; consultation with CCI for homeroom teacher.

2) At classroom level; consultation with sheet type CCI results to intervene in a student's and whole class problem.

3) At school and district level; teacher in-service training with CCI.

◆教育内容 / Educational Pursuits

伊藤研究室では、子ども・学校・地域・コミュニティをキーワードに、各人のテーマに応じて、実践研究を行っています。

臨床心理学・コミュニティ心理学・教育心理学・学校心理学の知見を元に、学校内外での、子ども支援を促進する方法の開発やシステムづくりをめざした実践研究です。

例えば、小学校・中学校・高等学校で、一教室あるいは、T T 枠などを提供してもらい、相談室を創設し相談システムづくりを実践的に検討するなどを、大学院生と学部学生が協力して行っています。

大学院生の多くは、心理臨床センターに所属し、相談事例について、伊藤のスーパーバイズを受けます。伊藤が母親面接、大学院生が子ども面接を担当する場合も多くなっています。そのほか、大学院生は興味に応じて外部実習に行っています。

In our laboratory, students do the action researches cooperated with each other focusing on their own topics in schools & communities. Their key words are prevention, mental health, children, youth, school, community.

Research methods are based on community psychology, clinical psychology, school psychology & educational psychology.

Many of graduate students also belong to the clinical psychology center in our university, do some clinical practices (counseling with children, parent, teacher) with supervisions by Dr.Ito.

◆研究計画

現在行っている実践研究を継続し、学校内外の子ども支援システムづくりについて、実践的な知見を提供する。特に、スクールカウンセラー実践の効果的な方法や、教師による子ども支援や学級づくりを臨床心理学の知見から支援する研究成果の蓄積が大きな目標である。06年度には学級風土質問紙(CCI)のマークシート化ができ、現在は国立教育政策研究所および日立アイシーシーとの共同で、PC入力による即時入力分析システムの開発を行っている。コミュニティアプローチによる学校臨床のテキストも07年春に出版できた。これら実用化を進めてきたCCIによるコンサルテーション・システムの完成と出版公開、それらを含む学校全体の支援に向けたパッケージツールの作成(H20～22年科学研究費基盤(C)20530623)が今後の課題である。

◆メッセージ

自分なりのテーマ関心を持ち、実践の場で創造的な実践研究ができる人材を求めています。

それぞれが自分の意見・センスを生かしながら、お互いに協働することで、学校という場や地域で、その場所の専門家である現職教員の先生方等と協働し、子ども支援を展開することは、やりがいのある実践研究活動です。スクールカウンセラーに重要なのはwork with すなわち他業種も含めた協働。それに環境要因や発達の要因も含めた適切な問題理解の力ではないでしょうか。

助け合い切磋琢磨しながら、創造的な臨床心理士・実践的研究者として成長していける研究室をめざしています。